

システムマネジメント学科と St. Mary's College of California によるジョイントグローバル PBL

グローバル企業・株式会社三井ハイテックの「問」に、 互いの「知」を共有して「解」を導く



写真左から

村上祐斗さん（大分工業高校出身） 張凱さん（南京理工大出身） 塩塚春菜さん（小郡高校出身） 大串はやとさん（南筑高校出身）
城野拓生さん・発表者（福岡講倫館高校出身） 藤原七海さん（北筑高校出身） 植田ちひろさん（一ツ葉高校出身）

システムマネジメント学科では、「システムマネジメントゼミナール II（3年生・必修）」では、自治体や企業などの協力を得ながら、我々の学びの軸である「経営工学」をもとに PBL（課題解決型学習）に取り組んでいます。今年度は、新たに、世界有数の技術を誇る超精密金型、リードフレームやモーターコアなどの製造・販売を行う株式会社三井ハイテック（以下、三井ハイテック）の協力のもと、米国・St. Mary's College of California（以下、SMC）とタッグを組みジョイントグローバル PBL を実施しました。昨年度よりシステムマネジメント学科・傅靖助教と SMC の Natasha Munshi 教授が中心となり本グローバル PBL を企画、その後、システムマネジメント学科学生 7 名（院生 1 名含む）と SMC 学生 14 名とともに準備を進めてきました。6 月 4 日(月)は来日した SMC 学生と合流して、最新設備を備える三井ハイテックの工場を見学、学生の準備状況プレゼンテーション、それに基づきパネルディスカッションを行いました。その後、本学の湯布院セミナーハウスに移動。5 日間にわたり合宿形式で文献調査、ケーススタディ

などのグループ活動などを行い課題解決に挑みました。途中、傅助教と Munshi 教授による国際企業のビジネス戦略や企業交渉に関する授業も行われ、それぞれの学生が異文化ビジネスについての理解を深めることもできました。6 月 8 日(金)には、三井ハイテック本社にて三井社長、下村学長をはじめとする多数の関係者が出席される中、本学および SMC 学生により最終報告プレゼンテーションが行われました。報告に関しては、三井社長より「我々が普段みない視点で各課題に取り組んでおられ、どの報告も非常に参考になる」などのコメントがあり、高評価を頂くことができました。



写真前列左端 Munshi 教授・左から 3 番目 Lee 副学部長
真ん中 三井ハイテック 三井康誠社長

プロジェクトリーダー・城野拓海君（福岡講倫館高校出身）のコメント：

三井ハイテック様には「モノづくりの最先端」と「グローバル化」について学ぶ機会を与えて頂きました。この PBL の準備にあたっては、メンバーと関連する膨大な資料を読んだり、それをまとめる作業が多く、大学で学ぶ専門知識をより深く理解できました。また、St. Mary's College の学生と一緒に授業を受けたり、夜は語り合ったりと、元の大学生活に戻るのをためらうほど充実したプロジェクトだったと思います。